

赤須賀漁師の伝言板

Vol.21

はまぐり復活物語 ～その3～

昭和53年から種苗生産・稚貝放流を始めましたが、すぐに水揚げにつながったわけではなく、平成7年には0.8トンまで水揚げが落ち込み、桑名の名産ハマグリは絶滅の危機に陥ってしまいました。

その間も漁業者は、徹底した出漁制限・漁獲規制を続けるとともに、失われたハマグリのすみかを再生すべく、平成5、6年に長島沖・城南沖に人工的に干潟を再生させました。

過去30数年にわたるハマグリ種苗の生産や稚貝放流などの地道な取り組みにより、近年ハマグリの水揚げが徐々に増えてきており、名産ハマグリ復活のきざしが見えてきたところです。

稚貝放流は、漁師と地元城東小学校の児童による「大きくなったらまたあおう」の掛け声とともに、ハマグリ復活への想いを込めて毎年おこなわれています。



長島沖の人工干潟



「大きくなったらまたあおう！！」